

平成28年度 第5回白井市市民参加推進会議 逐語録

開催日時 平成28年12月16日(金) 午後2時30分から午後5時まで
開催場所 市役所3階 会議室2
出席者 池川悟会長、市川温子副会長、坂野喜隆委員、手塚崇子委員、林章委員、
谷本滋宣委員、徳本悟委員、三浦永司委員
欠席者 田中卓也委員
事務局 市民活動支援課 豊田課長、松岡主査補、新井主事
傍聴者 なし
議題 平成28年度市民参加推進会議答申(案)について
資料 資料1 平成27年度市民参加の実施状況に対する総合的評価について(答申案)
資料2 第4回市民参加推進会議の意見を反映させた提言項目について

○事務局 それでは、時間がまいりましたので、平成28年度第5回白井市市民参加推進会議を開きたいと思えます。

会長から、ご挨拶をいただきたいと思えます。

○会長 その前に、課長が欠席されていますけれども、その辺のところ、ちょっと皆さんに。

○事務局 ご挨拶を会長からいただく前に、まず、このたびの第5回の市民参加推進会議の会議資料のお届けが事務局の落ち度によりまして、1週間前に皆様にはお渡しをさせていただきますということでお約束をさせていただきながら、2日前、それも夜中になってしまったということを心よりお詫び申し上げます。皆様の、こういった答申をいただくといった一番大切なところのタイミングでこのようになってしまったことは、何のどういう言葉もありませんけれども、きょうの会議の運営をしっかりとさせていただきしますので、お許しただけたらと思えます。

それからあと、本日、課長なんですけれども、議会が午前中から開催されておりまして、そちらに出席をしております。終わり次第、この市民参加推進会議のほうに事務局として加わらせていただきますけれども、議会が終わる時間が見通しが立たないものですから、もしかしたら終了間際になってしまう、もしくは終了まで出席できないということがあるかもしれませんけれども、あらかじめ皆様にお伝えしておきたいと思えます。

○会長 どうも、きょうはお寒い中来ていただきまして、インフルエンザもはやって大変な時期なんですけれども、これでいつものメンバーが全部そろって、きょうは市長に答申を出す、その素案を事務局のほうでまとめてくださったものを討議するという会議になっておりますので、ちょっと時間がなくてあれですが短い文章ですので、1週間前にいただいても、2日前にいただいても読むことは読めたと思えますので、十分な討議をして私と副会長と二人で市長のところへ答申案を持っていきますので、皆さんの代表として行きますので、十分討議をしていただければと思えます。よろしくお願ひします。

○事務局 それでは、議題に入ります前に、会議資料、1点ご報告がございます。

きょう、お配りをした資料の一番最後に、まちづくりふれあいトークという、これはチラシがございます。既に、12月10日に開催をさせていただいた事後報告になるんですけども、せんだって無作為抽出による公募委員登録候補者制度の登録者が93名いらっしゃったということをご報告させていただきました。

この皆様を対象に市政をより身近に感じていただいて、今後のまちづくりに参画いただけるような、そのきっかけをつくらせていただきたいという思いの中で開催をさせていただいたものです。12名という少ない皆様の参加ではありましたが、皆様ご予定がある中で来てくださいます、内容は二本立てとなっております。

市長の講話ということで、市長から前半は市の成り立ち、歴史、発展経過というようなものを話がありまして、その後、後半は現在の市政の取り組み、これからのまちづくりの考え方といったような話がありました。

また、市長講話の後に10分少々ではありましたが、質疑応答の時間を設けさせていただきまして、皆さんから盛りだくさんの質問ですね、市の活性化ですとか、さまざまなことについてのご意見、ご提案も含めた質疑が交わされました。

その後は、参加者同士の交流を図っていただくということで、まちのいいところ、悪いところといったような、皆様が気軽に話ができるようなテーマで二グループに分かれて、ミニグループワークのような形で皆さんそれぞれ出していただいて、それを発表して終わったというようなものです。

参加者の方から、また開催を望まれるような声もアンケートとして寄せられておりますので、今回、来られなかった方にも、またお誘いをかけていくような形で一人でも多くの方が、このまちづくりに参画いただけるような、そういった積極的な働きかけを市役所のほうからやっていきたいと思っております。

簡単ではありますが、こちらが報告になります。

それから、本日の会議資料の確認をさせていただきたいと思っております。まず、事前にお届けさせていただいた、2日前にお届けさせていただいたものの確認からさせていただきます。

本日の会議の開催の通知文がありました。それから資料1ということで、ちょうどクリップでとめられていたものなんですけれども、左上に白井市長伊澤史夫と書いてございますけれども、平成27年度市民参加の実施状況に対する総合的評価について答申案と書いてあるものと、それから今までの調表をまとめたもの、分厚いものなんですけれども、平成27年度市民参加の実施状況に対する総合的評価と、こちらを皆様のほうにはお渡しをさせていただきました。

本日の追加の会議資料ということになるんですけども、市民参加推進会議の次第が一部、本日、資料2が追加になりましたので、その資料2の分を書かせていただいたということで、この次第は差しかえということで見させていただきたいと思っております。

それから、事前にお配りいたしました資料1の中に、答申全文は会議当日に配付させていただきましたという記載をさせていただきましたが、その答申の全文案が、まず、本日お配りした二つ目になります。

それから、横書きのものとして資料2と書いてございますが、第4回市民参加推進会議の意見を反

映させた提言項目についてというものです。

それから、この提言をごらんいただきまして、●●委員から先日の会議では出席ができなかったということで、本日、資料という形でご意見を寄せていただきましたので、それをカラーコピーでお渡しをしております。

それから、前回の会議の逐語録と、それから会議要点録のほうを皆様に時間のない中でご確認をいただきまして、特に訂正いただくところはなかったんですけども、このような形で要点会議録と逐語録を報告させていただきます。

後日、皆様の発言をされた方の名前を伏した状態で、逐語録を情報公開していくということになります。

資料については、以上になります。お手元に資料が一部ないなど、何か不足があったり、資料についてのご質問がありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、議題のほう、会長、よろしく願いいたします。

○会長 まず、答申、きょういただいた分を読み上げて確認して、これから入りたいと思うんですが、よろしいですか。初めて見るので、これどなたも読んでないと思うので、答申の前文ですね。

○事務局 資料をまとめさせていただいた経過を、簡単にさせていただいてよろしいでしょうか。

○会長 経過を、はい。

○事務局 まず、実際の市長に答申いただく際のこれまでの構成なんですけれども、資料1でこの答申案がございました。この答申案の中にある答申前文のところに、きょうお配りしたものが入ってくるような形になります。なりまして、提言がありました後に、この総合的評価のものが入ってくるというようなのが、実際に会長から市長に答申を出していただく際のものになるということで、イメージしていただきたいと思います。

この事務局のほうで答申案を作成させていただくに当たりまして、資料2をごらんいただきながら簡単に経過を説明させていただきたいと思います。

資料2で、左側と右側に囲いがございます。左側にありますものが、第4回の前回の会議で、皆様からご意見としていただいた事柄になったり、あるいは第4回のA3判の会議資料2ということで、皆様に提言をこのようにしてみたらどうかというふうに書いていただいたもの、そういったものを中心にピックアップさせていただきました。

会議での意見のピックアップについては議事録ですね、要点の議事録、そこの中から全体を見ながら意見を拾い上げさせていただきまして、それでそれをもとに項目ごとに関連したものを分けまして、そしてそれが提言として1から4まで、そういう提言の項目になってくるのではないかというような整理の仕方になります。

また、今回の提言の中には、現段階では含まれていないんですけども、ほかにも貴重なご意見をいただいておりますので、それが資料2の下から2番目の部分と、下から1番目の部分になっておりまして、このような提言としては直接盛り込まないんですけども、重点的に重要な意見として取り組んでいくということですか、今後の任期内の中で検討してくだとかいったように書かせていただ

いております。

こういうようなもとに、この資料1の提言項目をつくらせていただいたというような経過になります。以上になります。

○会長 提言、これ4項目についての理由づけですね。じゃあ、答申の全文を読みますので、お聞きください。

答申、第四期白井市市民参加推進会議は、平成26年度に委嘱された9名によって組織し、市長から諮問された事項について調査審議を行いました。

諮問された事項は、市民参加の取り組みを行った事業についての「総合的評価に関すること」と、「市民参加条例の検証・見直しに関すること」の2事項であり、今年度の「総合的評価に関すること」については、平成27年度に市民参加を実施した13事業の総合的評価を行いました。

13事業のうち8事業が平成27年度で事業を終了し、5事業が平成28年度以降も継続して実施する事業であり、総合的評価において事業ごとに市民参加の方法やその実施内容、公表を含む市民への周知などについて調査・審議を行いました。また、今年度から総合的評価をより適切に行うため、2事業について担当課職員へのヒアリングを試行的に実施しました。

こうした調査・審議をもとに、今年度は任期3年目の総合的評価の答申として、以下の四つの提言を行います。これらの提言は、いずれも白井市における市民参加を更に推進させるために必要性な事項や不足している事項となりますので、改善を図ることで市民参加の質の向上が期待できます。

また、二つ目の諮問事項である「市民参加条例の検証・見直しに関すること」についての答申は、これまでの総合的評価をもとに、市民参加条例の課題と方向性を整理するなど、他市の市民参加条例の動向や内容をあわせ、さらなる審議を重ねる必要があるため、第四期の任期満了（平成29年7月29日）までに改めて答申を行うこととします。

市長におかれましては、本答申を受け、第5次総合計画に定められた市の将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現に向けて、更なる市民参加の推進に取り組んでいただくようお願いいたします、ということですね。

これについて、何か削除、あるいは加えること。これ読みますと、事業についての答申ですと、今回は、次、市民参加条例の検証・見直しについては、改めてもう一度答申しますと二通りのことを言っていますね。

これ、きょう決めなきゃだめ。

○事務局 おおよその方向性で、あと事務局のほうで整理してという形で。

○会長 てにをははさておき、内容的にどうかということでもいいですか、審議は。

○委員 てにをはじゃないんですけれども、ちょっと1点だけ。漢字なんですけど、終わりから2行目の更なるというのは、通常、官公庁では、平仮名でさらなるって書くことが多いんですけれども、これ、あえて漢字にされているんですか。

○会長 どちら辺ですか、真ん中ですか。

○委員 いえ、終わりから2行目です。

○会長 じゃあ、これ開きましょう。

○委員 平仮名にする。

○会長 平仮名。審議しないで、決めちゃいます。

ほかに。

○委員 内容じゃないんですけども、ヒアリングを行ったところを強調したいので、第2フレーズの最後なんですけれども、「また」から改行したらよろしいんじゃないですか。

○事務局 段落でということですね。

○会長 もう1回。真ん中より下だよ。

○委員 13事業のうち8事業はという具体的な説明に入りますよね。それで3行目の一番末字に、「また、」と始まりますよね。この「また」を改行にして、そのほうが強調できるかなと。あと、内容については、意見はございません。

○会長 はい、わかりました。今回、初めてでしたからね、ヒアリングというのね。

ほかには。内容的には、どうですか。こういう内容だよという前書きですから、間違っているわけじゃなくて。

○委員 済みません。ちょっと僕、見落としましたけれども、4段落目、こうした調査・審議をもとにというところの、やっぱり3行目に「更に」と漢字になっているんですね。

○会長 じゃあ、またそれも直しましょう。

○委員 特に意図はないですよ。

○事務局 意図はございません。

○委員 たまたま漢字に変換しただけですよ。

○会長 変換しちゃっただけというよ。

○委員 公文書というのは、漢字はあまり使わないものなんですか。

○委員 最近、接続詞は、みんな平仮名になってきました。例えば、「ことに」というのは、昔は殊という字を書いていたんですけども、あれも全部平仮名にしたり、下手をすると、特にも平仮名で書いたりもしますね。

○会長 なるほどね。

○委員 済みません。一番上の委嘱された人数は9名でいいんですか。

○会長 9名ですよ。委嘱されてましたものね。

○委員 ●●さんは、どうでしょうか。

○会長 ●●さんって、女性の方がいらしたんだよね。途中で辞職というか、おやめになられたので、これどうなのかな。当初に委嘱された人数で言うのかな。そうだね。

○委員 6年度だからね。

○会長 26年度に委嘱されたのは。

○委員 本当は10名なんだね、●●さん。

○会長 10名だね。で、女性の●●さん。

- 委員 3回ぐらい、2回ぐらい来たよね。2回は参加。何かそういうふうに聞きましたけれども。
- 会長 2回ぐらいは出られたのかな。とても任に負えないということで、おられたので。じゃあ、10名に直しましょう。
- 委員 1回目の答申のときは、名前入れたんですか。
- 事務局 名前は。
- 委員 表紙に、こう入りますよね。あそこには入っていたんでしょうか。入っているなら、入れたほうがいいですよ。
- 会長 だって、委嘱状というのを出しているはずだから。皆さん、もらってますよね。
- 委員 もらってるね。
- 会長 その委嘱状を出した人数だね。途中でやめようが死んじゃおうが。
- 事務局 (●●) 去年は入ってないね。
- 事務局 (××) 去年は入ってないです。今年が入っていたと思います。
- 事務局 (●●) 今年。
- 事務局 (××) 今年というか、当時は。
- 事務局 (●●) 昨年度の答申の際には、□□さんの名前は入って。
- 会長 ない。
- 事務局 はい。答申の全文の中にも、平成26年度に第四期の委員として新たに委嘱された9名の委員より運営していますと。
- 会長 じゃあ、最初から、はじいちゃったんだ。
- 事務局 そうですね。
- 委員 その前はどうか。
- 事務局 その前のやつは。
- 委員 3回目ですよ。
- 事務局 そうです。これは昨年のものですから。
- 委員 やっぱり入ってないんだ。だけど逆に、これが卒論だとすると、該当者に当初10という修飾語を入れれば、10人で説明してても、9名との整合性はできますよね。
- 会長 そうですね。
- 委員 せっかくやられていたんだから、入れてあげたらよろしいんじゃないですか。
- 会長 ねえ、手を挙げてね。
- 委員 当初10名だったと。
- 会長 当初。平成29年度じゃなくて。
- 委員 で、最後の、答申を上げるとき8名。それも何か変な感じがするんですけども。
- 委員 最後8人の★★さんも入っているのかな。外すというか、前からそう言っていた。
- 委員 答申書の名前ですけれども。どういうふうを考えるかなというのが。
- 委員 去年の答申が9名だったんですね。増えるのも変な話ですね。

- 会長 じゃあ、とぼけていっちゃうか。だけど、委嘱状というのは課で出すの、あれ。麗々しいやつ来たじゃない。
- 事務局 そうですね。一番最初の初年度のときには、□□委員の名前は入ってまして、最初は新たに委嘱された10名の委員によりとなっています。
- 会長 そうだよな。
- 委員 それ普通だよな。
- 事務局 □□さんの。
- 会長 26年度のってなると、10人になっちゃうよね。
- 事務局 はい。昨年度のときには、もう9名と。9名によって運営されていますというふうになっていますね。
- 会長 なるほどね。じゃあ、平成26年度に委嘱されたのは9名で間違いのないわけ。平成26年度でしょう。□□さんが入っているんでしょう、26年度の中に。
- 委員 26年度は入っているでしょう。
- 会長 だとしたら10名にしなきゃいけないんだよな。
- 委員 だから、当初10名という、当初という修飾語を入れたらどうですかというのが、途中からいなくなっちゃった。
- 会長 というか、今回の答申には、□□さんは全然関与してないんだよな。
- 事務局 はい。
- 委員 もちろんそうですね。
- 委員 だけど、ここ26と言っちゃっているの。
- 委員 よって、当初組織してですかね、そうしたら。
- 委員 そう。初めは10人だったんだけどもという言い方が、いいんじゃないかというのが僕の意見です。
- 委員 ちょっとわかりづらいから、ここ取っちゃったらいいよね、全部。
- 会長 全部、取っちゃう。
- 委員 全部というか、平成26年度から組織しまで、だから市長から諮問された事項について調査審議を行いましたでも。
- 会長 でも、何人で行ったかというのは、結構要るんじゃないかしら。
- 委員 それは、どこかに入るんですね。
- 委員 ここに入ってくるでしょう、数えれば。
- 委員 その次のページ、全員入れるなら。
- 会長 ここね。
- 委員 こっちで数えたら、8人。
- 会長 そうなんだよね。これは正確なんだよ、この括弧がね。
- 委員 これでいいんじゃないですか。わかる人だけが、わかると。ないしょ話。

○会長 じゃあ、このままでいきます、9名で。じゃあ、そうします。

○委員 じゃあ、ちょっとすみません。もう一遍確認して、委員の中に●●さんが入っていないんですけども、この前は、あの人は何も関与してないからと言ったけれども、委員ではあるんですね。

○委員 ある。

○会長 要するに、ここで審議したあれじゃないってということで、取り上げないということになったんです、中身について。

○委員 たしか、それは呼んだときに、課長さんとか一緒に了承していただいたというふうに、たしかこの間、報告を受けたんですよ。

○会長 そうそう。

○委員 そうそう。今、ここに9人の中に8名とか10名とか言っているけれども、名前が出るから。

○会長 とぼけて、いっちゃおう。

○委員 とぼけて、だから、あんまり難しいこと言わないほうがいいんじゃない、それ以上。

○会長 だから、いいじゃないですか。9名、このままで。

この答申の表紙には、実際にこれを審議し評価した委員の名前ですので、これでいいんじゃないかと思えます。市長には、この人数を数えていただくと。事務局はそれでよければそうしますけれども、いいですか。

○事務局 はい、それで。

○会長 実際は8名なんですけれども。どこかで逃げ場つくっておけばいいでしょう。

じゃあ、答申について、あんまり時間とれてないので、次のほうへ入りたいと思います。

それじゃあ、●●委員からの意見が、皆さん読んでこられたと思うんですけども、この4項目については、●●委員がそのときに出席できない状態だったものですから、別個に事務局のほうに文章を寄せられておりますので、●●委員から要点についてお話いただこうと思うんですが、皆さんよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○会長 じゃあ、●●委員、簡単に、てにをははともかくとして、内容についての部分をお話いただければと思うんですけども。

○●●委員 前は、大変申しわけございませんでした。ちょっと自分でもあまり経験したことのなような体調不良でして、欠席させていただいてしまいました。大変申しわけございませんでした。

それで、私のほう、思いつくままに、こういうふうな表現のほうがいいんじゃないかとかいうことが中心で、ちょこちょこ書かせていただいています。個別には見ていただければというふうに思うんですけども、あと特に提言の1では細かいところをちょこちょこ指摘していますので、一つ一つは取り上げません。

ただ、コメント6というところで、制度の高いというところで、制度というのは漢字が間違っておりますので、ここだけはちょっと直していただければと。

○会長 米偏のほうですね。

○●●委員　そうです。

○会長　わかりますよね、皆さんね。

○●●委員　提言2と提言4のところなんですけれども、提言2のところは、私たち委員として審議してきたほうは、終了評価とか中間評価とかという意味が内容を含めてわかっているんですけども、少し先ほど答申というのに少し詳しく書いてあったので、それとあんまり重複させてもいけないかなと思うんですけども、少しどういう事業で、どういう状態なのかというのをわかりやすくするには、13事業中5事業が年度をまたぐということで、その年度をまたぐものについては評価といっても中間評価、その単年度に限る部分の部分的な評価にならざるを得ないということから、非常に限界がありますよということをお願いなんですけれども、それも数字で言ったほうがわかりやすいということで、例えばその部分だと平均で42点、終了事業の平均は10点ということで、こういう中間評価が必要かどうか、その意義がということについて、もうちょっと理解しやすくするためには、少し具体的なほうが一般の職員さんや市民が読んだときに理解しやすいのかなと思って、ちょっとそういう趣旨のことを書きました。

提言4のところは、やっぱり同じで、パブリックコメント云々という抽象的な指摘になっているので、終了評価をした8事業全てで実施されているけれども、その半数の4事業については全く意見の提出がない、これにちょっと私が少し感じていた、皆さん方からも途中の審議の中で話が出た、審議会の傍聴が少ないケースが結構あったということと並べて書いて、市民の市政参加への参加意識を醸成していくことが、今後、課題ではないかということを示し具体的に数字で示したほうが理解しやすいのかなと。

最後のコメントの14は、日ごろから感じていたことで特に、この会に意見を述べたりしてきてはいないんですけども、広報しろいでパブリックコメントをする場合だとか、それぞれの事業の担当課が、それを多分、広報の原稿を書いて、それぞれ広報のどこに載っているかは、そのときの編集で決まってしまうのかもわかりませんが、傍聴が認められる公開される会議だとか、パブリックコメントだとかというのをちょっとコーナーをまとめちゃって、その月とか、当面これからの1カ月間の範囲内とか、決まってないやつもあるかと思いますが、決まっているものについては日付ごとにまとめて出すだとか、掲載するだとかだと、そういうことに比較的感心があるという人は、一々探さなくてもここをパッと見ればわかるみたいなふうに工夫してもらったりすることなんかも、一つどうなんだろうかと、これは日ごろからの私が勝手に感じていたことなので、それをちょっとつけ加えさせていただいたということです。

○会長　わかりました。ありがとうございました。

じゃあ、●●委員の申し入れを含めまして、提言1の内容から入りたいんですが、事務局のほうよろしいですか。

○事務局　事務局のほうで四つにまとめてあるんですけども、四つの区分けがいいかどうかも含めて、皆さんからのご審議をいただきたいと。

○会長　含めてね。この提言四つで網羅されているかどうかということですよ。あるいは、この提

言はいいじゃないかとか、そういうふうなことがあれば、最初にちょっと言っていたらいい。

○事務局　そういうこともひっくるめて。

○会長　提言1は、ヒアリングをやった、中間評価をもう一回見直せと、やめちゃったほうがいいんじゃないかというの、ちょっと暫定的になっていますからね。提言3が事前研修ですね、担当職員の。それから3番目が、パブリックコメントに対する情報の共有化、この四つですね。これ以外に、提言する内容というのは、いかがでしょうか。

私、もう一回、これ読み直してみたいんです、このコメント。これで、よくまとめてくださっているなというふうに思いました。例えば、非公開の部分なんかは具体的に、この事業と、この事業、この事業は議事録が非公開されないっていう指摘があったとかと書いてほしいなということは感じたんですけども、項目ごとで、また、皆さんと話をしたいと思うんですけども、できれば、このやった一番最初のコメントを読んでいただいたら、わかると思うのね、これ。担当課は、全てこれ読んでほしいんだよね。このコメントを、我々の。大変よく書かれていると思いました。提言とあわせて、もう一回僕、対比して見直してみますからね。その辺のところを市長さんを初め、市の幹部がどういうふうに捉えてくれるかなと。僕らが、どうやってそういうことを相手に捉えてもらえるのかなという方法も考えないといけないですね。提言です、はいって言って、あ、どうもって言って、ポンと置かれたんじゃ提言にならないので。

じゃあ、1項目めから始めましょうか。提言1。

○委員　会長、よろしいですか。項目に入る前に、3と4を逆にしたほうがよろしいんじゃないかと。

○会長　逆にする。

○委員　つまり1のヒアリングの話も2の中間評価の中止の話も4のパブリックコメントの話も、評価に関する話なんですよ。で、3は職員の話なんです。

○会長　ということは、3が一番最後、提言4が1になるわけね。

○委員　じゃなくて、3と4を逆転させて。

○会長　3と4を逆転。

○委員　3が4、4が3で、いかがでしょうか。

○会長　もう全く。どうです、皆さん。

○委員　いいんじゃないでしょうか。

○会長　反論がなければ、提言3と4を入れかえます。提言1ですが、これもちょっと時間があるので読みますね。

提言1、職員ヒアリングを全対象事業へ拡大実施、実質的な評価と事業の説明責任。

前年度に提言した「市民参加をさらに進めるための新たな評価方法の検討」の手法として、今年度は2事業にて担当課の職員へのヒアリングを試行的に実施しました。

担当課の職員から、事業の詳細や市民参加に関する取り組みを直接ヒアリングして確認することにより、十分に事業を把握することができました。ヒアリングを実施した結果、評価点数が変わるなど、ヒアリングがより実質的な評価につながるようになりました。

また、これからの行政運営においては透明性を確保し、市民への事業の説明責任を十分に果たしていくことも求められます。

このことから、今年度の試行実施を経て市民参加の総合的評価におけるヒアリングの有用性を確認することができましたので、次年度から職員ヒアリングを総合的評価の全対象事業へ拡大し、実施していくよう期待します。

ここで、●●委員からのあれは、こちらから必要とされる事業に対してという訂正の意見が入っているんですね。

○××委員 これは、私もちょっと、今日言おうと思っていたんですが、今、●●さんの書いてある市民参加推進会議が必要と判断した事業と、やっぱりこういうことだと、これだと全てをやるのかなというふうに、全てやるわけじゃないでしょう。

○会長 絞りますか。いや、全て、というふうに言ってますね、これは。

○委員 全てじゃないでしょう。あのときも、全てというような話だったんですけども。

○会長 マル・バツをつけたよね。マル・バツをつけて。

○委員 今回は、試行だから、マル・バツで多いものをやったんです。

○会長 そうだね。

○委員 中間もあるし、いろいろあるから全てということじゃなくて、今の●●さんのコメントにあるようなほうがいいんじゃないかと、私は思いました。

○会長 ほかに、△△委員。

○△△委員 提言1と提言2というのはちょっと関連していて、先ほど●●さんとか□□さんがおっしゃったように全部やらなくて、中間評価がたくさんあるということじゃないですか。提言2だと中間を廃止し、終了したものだけを評価するとなれば、評価対象事業が減るので、だから全部できる可能性があるということが1点と、もう一つは、ヒアリングしたものとヒアリングしないものと点数が変わったじゃないですか。

○委員 ちょっと変わったね。

○△△委員 あれを今回は2事業しかしてないから、ほかの事業と一緒にするために、点数は変わったけれども、ヒアリングする前の点数にしようっていったんですが、ヒアリングをしたことによって、より知るんだったら、ちゃんとした評価を出すことも委員として求められるかなとも思ったり私なんかはするので、そうすると、だったら全部をやって点数をきちんと同じ評価基準にして提出するというのも、一つ意味があることだと思うんですけども、それをどうするか。せっかくヒアリングをやっても、それが評価に活かされてないなら、ちょっとそれはまた違う気もするので、その辺を1と2の関連もあるから、どうするかなと思ったりして、その辺も皆さんで話し合っ、1と2と一緒に考えたほうがいいのかなんて思ったんですけども。ヒアリングした後の評価をするのか、そうじゃなくするのかということと、評価も何かヒアリングの意味をどこに見出すのかということですよ。私たちがヒアリングをした結果の思った評価を皆さんに最終的に出すのであれば、中間などを例えばやめた分減るので全部をやるということにするのか、そうじゃなくするのかという。それをみんなで

話し合ったら、いかがかと思うんですけども、どうでしょうか。

○会長 ××委員。

○××委員 1番のことについては、一緒なんですけれども、私の意見はオールだけを外そうかと思ったんです。必要なものと限定するわけなんですけれども、対象事業を拡大しというのがどうかと思っていました。

あと、今、△△先生がおっしゃった、ヒアリングの結果の話ですね。前は、この総合評価の中に、ヒアリング事業をやって一方は高くなって一方は低くなったけれども、括弧で入れたらどうですかと申し上げたんです。

ヒアリングした結果、上がったか下がったかというのを残したほうがいいんじゃないかと思ったんです。

それに関連して言うと、△△先生言ったように、全部やるか、やらないかというのではなくて、やったものもあるし、やらないものもあるし、その変化がどうかということで、2番は消化できるんじゃないかと実は思っているんです。

○会長 なるほど、ありがとうございます。

○委員 括弧もしくは、全員でお話を検討されることだと思うので、それはもう正直な話、次期の方々のこともあるので、それは皆さんでお話ししたほうがいいと思うんですけども、先ほども△△委員がおっしゃったように、やるなら全部やったほうが公平ですし、大変かもしれませんが、それで先ほどのお話で、次年度以降、中間評価というのがなくなるとすれば、それも全部可能になりますよね。やっぱりヒアリングをして、それで結果を出すというのが本来はベストだと思いますので、担当課の人も、これは結局見てないとか、書いたけど、はい終わりっていう話だったら、やっぱりちゃんと来てもらって、担当課の方もちゃんと見てるから頑張るってねと言ってあげたほうが、自分はいいと思うんです。

多分、こんなこと職員の方の目の前で言っているのかどうかわかりませんが、実際、書きました、はい終わりっていう人もいるんじゃないかなと思うんです。ですから、担当課1人というんじゃなくて、やっぱり携わった人、なるべく多く出てもらって、それでこちらの意見をきちんと聞いてもらうというのが一番ベストじゃないかと思っております。

○委員 確かに今、全体、評価がバラバラになると、それはこの前も話したから、そのとおりだと思います。そうすると、そういうヒアリングをする今までの我々の回数、会議からする、これはそういうヒアリングをする日を2日ぐらいとか、1事業が15分間か20分かわかりませんが、大体そういう。

○会長 20分でしたね、この間。

○委員 20分だから、2時間とやるとすれば四つとか、それに合わせて、あとそういう日程をこの会議の中に組み込むということですね。今は今の予定の中でやったから2事業が目いっぱいだったけれども、そうしたらあと2日ぐらいとか、3日ぐらいとかというふうに市のほうで委員の人ともよくあれしてもらって、我々ももう来年はないんだけど。あと残ってくれる人がいるとすれば、そういう含めて、そういうことになりますね。

○会長 そうですね。会議は長くなりますね。だから、それに次年度の、次回、委員さんたちが耐えられるかどうか。

○委員 それは耐えられますよ。こういうことやるからお願いしますと言えばいいんですよ。別に、年間4回だか、5回と言わずに7回やりましょうと言えばいいだけの話ですから。その後、予算の問題もちょっとあるかもしれませんが、それはできますよ。

○会長 それはそうです。

○委員 ●●さんがコメントに書いていただいたのは、対象だった13事業のうち5事業が中間ということは、5事業は評価しなくていいから、その分時間はあくから。

○委員 その次のやつ、中間はしないという、中間しないと、この前お話ししたんだったですか。中間のやつは止めて、全部結論だけ終わったやつだけで、そういうふうにしたんですか。

○会長 その辺のところは、さっき、どうかという話です。

○委員 したんだった。あ、どうか。

○会長 その要旨で、意見が集約されていますから、読んでいただければと。

○事務局 今のご意見、△△委員からございましたけれども、中間評価をやる意義の一つとして、事業の途中で答申を出す。これはまだまだだめだよということがあった場合に、じゃあこれからまだ事業を続けるわけだから、今後の事業をするときに、こういったことに気をつけて、しっかりやってくださいねというようなことで指導なり、改善を促すことができるのであれば、中間評価というものも一つ意味があることじゃないでしょうかという意見は、出ておりました。

○委員 そうですね。というのは、今回を見ても、ある事業には庁舎の5年がかりだとか、西白井コミュニティセンターで見たら6年がかりとか、それを全部終わってからの悪いの言ったって、後の祭りですよ、はっきり言って。

だから、1年とか2年で終わるんだったら、まだしも、そういうのもあるから、全部終了してからでないといけないというのは。

○会長 事業によるということですね。

○委員 もう一遍、皆さんの中で、考えたほうがいいのかなど。

○会長 私もそれ、長期的な事業については、中間的な採点が必要じゃないかというふうには思っただけです。ただ、これまだ提言2に入っていないので。

それで、私、ちょっと意見があるんですが、今のヒアリングの件は、やっぱり●●先生に、僕全く同じ考えだったんです。やっぱり担当職員さんも緊張感を持ってやってほしいですね。

要するに、パブリックコメントをやればよってって、アライズづくりみたいなのがひどかったじゃないですか、今回。やってもゼロとかね。

だったら、どういうことなのかというと、中間に僕らが聞くということによって、あ、これはやばいぞと、両方が勉強するという部分が必要じゃないかと思ったんです、ヒアリングを開いてみて。結局、何で図書館に置かなかったかということ、忘れてましたとか、そういう部分があるわけでしょう。

だから、やっぱりこの審議会とか委員会に出て、これは市長との約束でもって図書館に情報を置く

というのが、前回、決まったことだと、そういうちゃんと履行しないのが、けしからんというものが伝わったと思うんです。

だから、そういう意味では全部やれば、●●先生も言いにくそうだったので、私もそうなんですが、職員さんの研修みたいなことにもなるんじゃないかというふうに思うんですね。そこで私たちがつけた点数が、最終的な評価ですよということにくられるんじゃないかと思うんです。

○委員 1回経験した方は、来年こんなことを聞かれるから、これは大丈夫だってなって伝わっていくじゃないですか。それもいい経験値となっておりますよね。

○会長 ですよ。だから、職員さん、一生懸命やる人は一生懸命やるんですけども、そうじゃない人はかなり、こう言っちゃあれなんですけれども、2番目に出た★★さんの話、みんなわかりました。言っていることが、だってわからないでしょう。本人自身がわからないんだから。しかも彼、かわいそうに途中から踏み込まれちゃって、ちゃんとわかってないですよ、この事業そのものは。だけど、担当者だからって来てるわけだよ。だから、ああいうのも仕置きになると思うんです。俺、行ってひどい目に遭っちゃったみたいな話になると思うんです。これ全部にやっていると。

○委員 個人的な話になると前もちょっと、一生懸命やっていたから、わかるけどさ。

○会長 その、この会議は、油断がならない会議だという危機感を彼らに知ってもらって、そういうのもあると思うんだよな、俺。

●●さん。

○●●委員 ただ、この諮問されているのは、結果として終了しちゃったのを結果評価をしてくれというふうに諮問されているでしょう。だから、それが基本でいいと思うんです。

ただ、その結果評価でも、何で結果評価をやっているかっていえば、結果評価をされることによって、自分たちはここが足りないんだなと、今後は考えないといけないんだなというのに役立てほしいからやっているわけですよ。だから二つの面があると。点数出すためだけではなくて、職員の啓蒙というか激励も兼ねていると。

その意味でいうと、今回、順番では別になりましたが、提言3のほうに書かれている事前研修をやってくださるという、これはすごく積極的な意義があるんじゃないかなと。この中で、事務局さんのほうでやるだけではなくて、例えば先生とか会長とかそういうところが、こういうふうにこの会議をやってきて、こういうのを感じてますよというのを、率直に少し時間をいただいて話してもらうだとかすれば、これが一番最初にやるのが一番いいかなというふうには私は思うんです。

だからあんまり、ここはそんなにこだわらなくてもという面と、それから全対象事業というのはちょっと引っかけたのは、先ほどからも意見が出てますけれども、条例上、必ずしも義務ではない事業でも、パブリックコメントとか、ポーズだけとってみようかとかというやつなんかもあったじゃないですか。そんなやつまで別にヒアリングして、あんまり意味がないなと。

逆に、庁舎なんかは長くかかっているけれども、あんまり文句つけるところは私なんかはないというふうに非常にすばらしくやっているところ、そういうところは必ずしもやらなくてもいいのかなというふうに思ったりもしたので、全じゃなければ、××さんの意見ですね、基本的にはやるというあ

たりで、うまく表現できれば、私は別にこれに固執するわけではないです。

○会長 その平等原則からすれば、全事業が対象にはなりませんけれども、こちらのほうからあえてお聞きしなくても、事業そのものが見えてるといふ部分の取捨選択みたいな部分も必要ではないかということでもとめてみたいんですが、いいですか、それで。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○会長 後で録音聞いて、その辺のところをうまく。

じゃあ、2番目に入ります。早いところ、いきたいので。

○委員 いいですか。文章のところで、意見なんですけれどもいいですか。4行目の直接ヒアリングして確認することにより、例えば調査票だけでは読み取ることができないことを確認し、十分に事業を理解することができましたとか。

○委員 そのほうが、わかりやすいということですね。

○委員 はい。ヒアリングして確認することにより、これは、これからは私の案です。調査票だけでは読み取ることができないことを確認し、十分に事業を把握することができる。

○委員 そのとおりですね。

○委員 そうですね。

○委員 それをできれば入れていただいたら、ありがたいなと。ありがとうございます。

○会長 異議ないので、追加してください。

○事務局 はい。

○会長 ●●委員のほうの、てにをはがありましたね。の手段としてを取ると、1行目。

○●●委員 評価方法の検討の手法という表現は、ちょっとわかりづらいなということで、検討だけで検討としてといっちゃったほうがいいんじゃないかと、にて……。

○会長 どうですか、それ。じゃあ、それでいきましょう。それから。

○委員 次の行の2事業にてというのは、ついでのほうのわかりやすいかなと。

○会長 ついでね。2事業について。それから。

○委員 次のコメントは、十分に事業をというのは、ちょっと表現どうかと。例えば、より深くとかというほうが。

○会長 十分にを、より深く。

○委員 より深く事業を理解することができました、ぐらいのほうがいいのかなっていう、ちょっと私の感覚の問題ですから。

○会長 ああそうか、十分ではないかもしれないね。より深くになれば、十分でも浅いでもあるからね。

○委員 先ほどの△△委員のあれが入れば、これはわかると思うんです。

○会長 なるほどね。そうか、事業に対するね。

○委員 そうですね。先ほど△△委員がおっしゃった、ヒアリングがより実質的など、実質的な評価っていうのは、なかなか難しい受け取り方になっちゃうので。

○会長 確かにね。十分だったのかって聞かれちゃうね。

○委員 そこは、僕は精度の高いとかというふうにしたけれども、△△委員のが採用されれば、それは非常にわかりやすく具体的だし、いいんじゃないかなと私も思います。

○会長 じゃあ、そういうことで、これは十分にいきましょう。△△委員の先ほどの文章を入れれば、これは生きてくると。それから、あとは。

○委員 ヒアリングを実施した結果って、ヒアリング、ヒアリングってずっと。

○会長 ヒアリングが多いですね。

○委員 この結果でもいいのかなというふうに、思ったのと。これからの行政運営においては透明性を確保しという、このままでもいいんですけども、より一層というのが私は比較的好きなもので、入れたらどうかというぐらいですね。

○会長 透明性の前に、より一層透明性をというふうにした。反対がなきゃ、どんどんいっちゃいますよ。いいですか。

じゃあ、大体いいですか、●●委員。

○●●委員 はい。

○会長 じゃあ、提言1については、そういうことで事務局のほうはまとめられますね。

○事務局 はい。全対象の全ということを決めつけた形ではなくて、対象事業を広げるというようなもののニュアンスでいっていいことですね。

○会長 そうです。

○事務局 ●●委員のほうからも、具体的に必要と判断した事業とかというふうに書いてあるんですけども、この辺のニュアンス、書きっぷりということで、どうでしょうか。

○委員 僕は、全てを取ってもらえれば、必要なとか、修飾語が入っても別に異議ありません。

○事務局 はい。

○委員 全取って、対象事業をでいいんじゃない、にじゃなくて。

○委員 全取れば、をになりますね。

○会長 そうだね。

○委員 私もそれで同様ですから、取り下げですから。

○事務局 わかりました。じゃあ、総合評価の対象事業を拡大しということで、させていただきます。

○会長 そうですね。

○委員 別件で、文章の中で、職員ヒアリングと書いてあるところと、職員へのヒアリングと書いてあるところがあるので、それは統一していただいたほうが。職員へのヒアリングか、職員ヒアリングか、どちらかにするという。

○事務局 じゃあ、職員ヒアリングに統一させてもらってもよろしいですか。

○会長 はい。じゃあ、これで提言1、まとめてもらいます。

提言2、中間評価を廃止し、終了評価に一本化、審議時間の効率的・効果的活用。

これまで市民参加の実施状況に対する総合的評価は、終了した事業を「終了評価」として、年度をまたぎ事業が継続して行われるものを「中間評価」として評価をしてきました。

しかし、中間評価においては事業の途中段階での評価となるため、事業の全体像や市民参加の全体プロセスが時系列的に把握できないため、事業の一部分からしか評価が行えません。また、終了評価の際には中間評価時に出された論点や意見を再度確認しながら評価を行う等、議論が重複する場面も多々あり、限られた審議会の中で中間評価の意義が見出しにくい状況にあります。

このことから、審議時間を効率的・効果的に活用するとともに、終了評価の審議をより深く行っていくため、今後の総合的評価は中間評価を廃止し、事業の終了時に行う終了評価へ一本化することを期待します。

これで、さっきの●●委員の長期にわたる事業は、それでいいのかというがあるので、私もそれ疑問に思ったんです。5年、6年もので、下手すりゃ僕ら3年任期なのに、それでも終わらない事業があるということになると、じゃあ評価できないじゃないかという矛盾もありますよね。

○委員 確かに、そういう異議があるので、原則廃止というのはどうですか。原則廃止して、市民参加推進会議が必要と判断した場合には、中間評価をやるといふうにすれば負担は減りますよね。やっぱり先ほどおっしゃったところで重要な施策なんかは続いていますので、それでいくか、みんなでどれがいいかというのを出してもらうというのが決めるのがいいですかね。

○会長 そうですね。

○委員 全部やるというのは、確かにやっても意味ないというのもありましたね、実際。

○会長 ありましたね。口腔何とかとかね。歯のあれね。あれなんかも、出てきて関係者だけでワアワアやってね、これどうやって評価するんだというような。これは、中間評価もへったくれもないですよ。

○委員 それはこっちで判断するというのが、全部やるという話だったら、全部やらなきゃいけないですよ。

○会長 全部というのも、ちょっと乱暴だなと思いますけれども。

○委員 原則は廃止で、必要と判断した場合は、やることにするというのが、一番負担が少なくなりますよね。

○委員 原点というか、我々、市民参加推進会議の評価するのに求められているものは、さっき●●さんがおっしゃったんだけど、結果はですか、途中のことなんかは求められていないのかどうか、何というか審議会の趣旨をもう一遍よく見なきゃいけないんですけれども、あんまり首を突っ込み過ぎていいのかどうかということも、ちょっと今、話の中から思うんですけれども。結果を評価して、後から我々が全部3年かかろうが5年かかろうが評価して、それをフィードバックしたときにほかの職員に、さっきいろいろ職員に教育するだとか何とかだって問題点を洗い出して、そういうふうに指導するというか問題点を、そういう方法を我々が求められているのであれば、途中、途中と、あんまり言うのもどうなのかなと、今ふいと思ったんですけれども、いかがでしょうか。

○委員 会長、言いにくいと思いますけれども、多分、その前の段階で終わってからだと、はっきり

言うとチェックできないから途中で変えていこうというのが一番評価できたと思うんです、前に。だから、恐らく今後の方針というところで、それ話し合わなくちゃいけない話ですよ、やっぱり。それは多分、前の段階で中間にも入れるようにしようというようにした話で、確かに●●さんがおっしゃるように、意義としては結果の評価が基本だと思うんです。それが結果の評価だと、途中で職員の前でちょっと言いにくい話ばかりなんですけれども、やっぱり行政って一旦進むと終わらないと。だから途中で見直したり、ある程度事業というのは終わるまでは危険だという話が、たしか前にありましたよね。

○会長 ありましたね。

○委員 なので、中間評価が欲しいという話になったと思うんですけれども、それを次期の方もどのように思われるとか、ケースバイケースで変えられるようなスタンスをとるのが一番いいのかなとは思っています。だから、条例の変更も含めて、次回の委員が使い勝手がいいようにしてあげたらいいんじゃないかと思いましたが、どうですか。

○委員 そうなると、ですから我々、求められているものは何かということをもう一遍見直して、後の人は、今、先生がおっしゃったように、使いやすいようにするということが一番大事だね。そういう規約というか、規定の改正ですか、も含めて、やっぱり。

○委員 ちょっとそこまで考えてなかった。さっきの△△先生の話の踏まえて。これ削除したほうがいいんじゃないかと思うんです、結論は。

○会長 提言を削除。

○委員 はい、2番を削除。★★先生の気持ちと、逆の表現を僕してるんじゃないかと思うんですけれども、二つ申し上げます。一つは、市民参加条例の推進会議の審議事項を見ると、当然、1番目に市民参加の実施状況に関する総合評価と書いてあるんですね。結果という言葉を使ってないんです。

○会長 実施案だね。

○委員 だから、途中で、やっぱり実施なんだと思うんです。

○会長 そうですね。

○委員 その結果として、後で説明出てくるとは思いますけれども、過去10年間の評価の事項を見ると、平成16年の初めから中間評価をやっているんですね。そういう前提でいくと、あとやらない部分があってもいいんですけれども、それはここの委員会の判断で、それはそれでいいよと取捨選択することはできるんですけども、そういう状況にしておいて、やっぱりないほうがいいかもしれないというのが私の意見です。

○会長 提言は、そうなたたじゃないですか。

○委員 提言そのものを廃止するものをなくす、だから活かす、中間報告をやると。

○会長 そのままね。

○委員 やるという前提にしておいて、歯医者さんの話が出ましたけれども、あれはもういいよと、こっちで選ぶ、そういう作業でいいんじゃないかなという気がします。

○会長 選択できる。

○委員 こちらが選ぶ。やりません、中間報告は原則やりませんよじゃなく。

○会長 僕なんかは、この例の9番から13番の中途のやつ、点数つけるときに、全く0点にしたのがあるんです。それは、やりもしないことを評価できないと、ほかの方は手続き踏んでいるからといって5点なんかやっている優しい人もいたんですけれども、だからそういう矛盾が生まれてくるんですね。

○委員 ありますね。

○会長 私の意見としては、やってないものを評価できないということですよ。それを評価しろということのほうが無理がある。

○委員 だから、それは途中ですけれども、許可の方法、手段の話になってくるんですね。やり方の問題。それやり方はいろいろあるわけで、ということで整理できるんじゃないかと思うんです。

○会長 だとすると、先生から、さっきちょっと提案したように、それごとに僕たちは選択して、この分は点数つけましょと、これはまだ点数つける部分にはなっていないから、評価できませんということを経験で決めちゃうと。

○委員 だから、こちらで決める。

○会長 じゃあ、あれじゃないですか。取捨選択できるというふうにならざるを得ない文章化したほうが、何の基準に基づいて、お前らそんなこと勝手にできるんだっていう話になっちゃうので。

○委員 なるかもしれませんけれども、そこは16年から10年間やってきたわけで。

○会長 だから10年間はわからないまま進んできたと思うんです。

○委員 わからないというか、多分、その気持ちはあったと思うんです、初めからやってるということは。それを今、10年後に、どう整理するかということなんだと思うんですけれども、そういう前提で言っても僕は看板おろす必要はなくて、例えば二つ目具体的に言いますが。

○会長 はい。じゃあ、ここで提言されているということは、効率的・効果的な活用したいということで、どうです。やめたいんだけどという答申になっているのかな。

○委員 わかります。

○会長 効率的な部分をどうするかというのが、この提言2の中のものでよね。

○委員 あります。もしも、これを生かすとすると会長がおっしゃった、下から3行目の、審議時間を効率的・効果的に活用するとともにというのは、削除したほうがいいんじゃないかと思っていたんです。そんなこと言っていられないということなんです。

○会長 なるほどね。

○委員 だから、看板はおろさない。具体的に言うと、今回は、9、10、11、12、13番の5本ですよ。そうすると、さっき□□さんが心配したように、あとはちょっと出てるのが、市庁舎の整備が出てますよね。これ●●さん、すごい評価が高いからいいんだけど、評価低くて終わってから言っちゃって、しょうがない話になってくるんじゃないかと。

もう一つなのは、西白井のコミュニティ施設建設事業って、▼▼さんやってるのかな。

○事務局 (▼▼) 市民活動支援課で。

○委員 時間かかっているんでしょう。だから何しているのと言えるんじゃないかと思うんです、中間報告に。何かアプローチするチャンスを持ったほうがいいんじゃないかと思います。

○会長 どうですか。××委員は、これは提言2は省くという極端な言い方ですけども。

○委員 だから、あれなんじゃないかな。中間評価においては、その事業の必要性において、途中段階でも評価するみたいに書いたほうがいいんじゃない。事業のあれによって、途中で評価する部分もあるよという必要性という部分も入れれば。だから、必要とないと判断すれば、しないということ。そういうほうが幅を持たせたような感じだと、この文章が生かせるんじゃないのかなと。

○会長 じゃあ、××委員は、これ提言しないということは、どうなんですか。●●委員。

○●●委員 今、提言2の中で、二つ問題があるというか、テーマがあると思うんです。中間評価というやり方自身の意義が見出しにくいと、だから中間評価というのは本当に意義があるのかどうかと。意義があれば、それは審議時間が多少かかろうと、それはその会議でやる必要があると思うんです。そのことと、限られた審議会の中でという自分たちの都合を理由にやめるというニュアンスで、ちょっととれなくもないじゃないですか。それは、私はあんまり思わないというところで、ただ問題は特に限られた審議会云々というのは、今までちょっと事業の件数がすごく多かったので、そういう気持ちが出るのはあったんですけども、その理由は中間評価が多いことと、それからちょうど総合計画を立てる時期とが重なったので、それと都市マスタープランだ、やれいろいろな障害者計画だ、それが全部連動してるから、一斉に出てきたというのがあったと思うんです。

これから、そういうことがないとは言えないかもわかりませんが、これほど大きなこの事業がふえるというふうには、今の状況からはあまり考えづらいように私は感じているので、いずれにせよ、審議会の都合でやらないですよというニュアンスは消したほうが私はいいと思う。純粹に、じゃあ中間評価の意義はどの程度あるのかと。

特に、後ろに資料で総合評価の点数表をつけるじゃないですか。その中で、わかりやすくするために、二重マル、マル、三角、バツってやったじゃないですか。市庁舎は、ちょっと特別だったので二重マル、中間評価についていますけれども、あとはバツ、三角、バツ、バツと。

○会長 評価は悪いよね。

○●●委員 こういう評価をどうなのかなとか、学校のテストじゃないけれども、2時間ぐらいテストの時間があって4ページあって、ここのページの分は30分答える時間を与えるけれども、この分は20点だよと。この3ページ目には40点だよとかと言うことが、どうなのかなという感じを私はどうしてもするんですね。だから中間評価をすることで、いろいろと考えてもらおうと、次年度以降残された期間に、さらに改善してほしいというやつは別の手を考えるべきで、中間評価でそのことを期待するというふうには、あんまりにならないんじゃないかというのが私の感想です。

○会長 この提言2のタイトル、中間評価を廃止しというのは、すごいあれなんだよ。見直しというふうに直したらどうかなと思うんですよ。中間評価を見直し。

○委員 それもいいですね。

○会長 終了評価に結論を出す。

○委員 重点を置くぐらいですか。

○会長 終了評価に重点を置く。

○委員 そうだね。

○会長 そうしないと、効率化を図るっていうのが大事なことだと私は思うので、やっぱり委員会でチョイスできるという。今回、これは評価はまだ、評価をする部分にきてないと。これは、中間評価する事業だという取捨選択が、その委員会でできると。だから、この答申書では中間評価については継続とか何とか、なっちゃうわね、マル・バツじゃなくて。

○委員 ほかの方と同じようなのを抽象的に言っちゃうかもしれないけれども、中間評価の位置づけをきちんと決めないと、結局、この結論は出ない気がして、その中間評価を審議会の中でどういう扱いにするのか、さっき言ったように取捨選択して、やっぱりこれは大事だからやったほうがいいのかというふうに選べるようにするというのが今の方法だと思うし、有効的に中間評価が活用できるものは、やったほうがいいのかは思うんですけども、そうじゃないものに関してまで、やる必要は確かにない、疑問に思うこともあったじゃないですか。その辺の位置づけを審議会の中で話をして、どれをやるかやらないかというところをどういう位置づけにするか、みたいなことを今度みんなで決めるというのをしたら、これが今の2の提言が生かされてくるんじゃないかと思いますので。

○会長 文章的には、どういうふうに直しましょうか。

○委員 なかなか難しいですけども、今の会長と△△先生のと合わせたような感じで、それがいいんじゃないかなと。だから、例えば今までのやり方というのは、全部、予定表があって点数つけてこうやってマル・バツも含めて出しているじゃないですか。だから中間評価というのは、点数をつけることが必ずしも適切かどうかわからない。ただ、経過見ると、あと2年ぐらいかかってやろうとしているけれども、計画自身があんまり十分でないとか、そういうコメントは、だから報告は出してもらう今までどおりに。この年度、どういうふうに行ってきましたよと出してもらって、全く終了評価とは同じ点数で例えばやらなくて、こういうコメントは付記するみたいな方法でやるとか、少し弾力性を余地を残しておいていいんじゃないかなという感じがします。

○委員 ちょっと質問していいですか。ごめんなさい。言いにくいことがあると思うので、もしいやだったら、黙ってください。

恐らく、白井市のいわゆる行政組織としての方向性なんですけれども、恐らく例えば行政評価、自己評価だけだと思いますが、例えばそこに外部評価とかって加える意思はありますか。

○事務局 外部評価は、今の政策動向でいけば、ないですね。

○委員 ないのであれば、市民の声が反映されるのはここしかないのでは、やったほうがいいのかと思いますけれども、もし外部評価とかされるのだったら1年ごとに市民の人の声で、そちらのほうから入ってくるといいますのでいいかもしれませんが、ないんだったらこっちをやったほうがいいですよ、そうしたら。■■さんは言うてくださるから、いいですね。

○委員 ということは、ここで100点満点のところ70点、80点なら二重マルだけれども、30点だったらバツだとか三角だとか言われても、その担当者は特におとがめは、そういう意味では評価はないと、

はっきり言えば。

○事務局 ないですね。

○委員 今のところはね。そういう、ずばり聞かないと、僕も鈍いから、よく。

○委員 ちゃんと言ってくださるから、いいですね。本当に。

○委員 なるほどね。

○事務局 そういった意味では、評価に値するかどうかという、これ提言3にかかわることですけれども、ものの基準というものが、こういうものなんですよ。その評価を得るためには、こういったことが理解されて、事業が実施できなきゃいけないということを事前にわかった上で、自覚して事業を推進するというプロセスがないと、中間でも事後でも、その部分というのはなかなか指摘を吸収できない、結果として事業の見直しという軌道修正もできない、終わった後の祭りというようなところになってくるような、行政の今の流れはあると思います。

○委員 ●●さんもそうだと思うんですが、コメントを出すことが重要ですよ。どういうふう中途で言われたのかっていうのを本当にその人がそれを読んで素直に受け入れるかは別としても、そういう結果が出てしまったことを誰かが知っているというところが大事なかもしれないですね。

○委員 ただ、一つ問題があるのは、〇〇委員がおっしゃったように、一応、委員と言っているのに委員がおっしゃったように、やっぱりそういうふうな懲罰じゃないですけども、ある程度拘束力がないと厳しいですよ。そのままやっちゃいますからね。多分、会長もご意思じゃないですけども、そういうものを反映するならば、むちゃくちゃな話をしますけれども、部長評価に準じたものにするとか、あるいは職員課の査定にかかわるとか、そういったものの影響力までここに持たせる、これ条例の改正と内規の改正必要だと思いますけれども、そこまでの重要な会議にするという手もありますよね。

○委員 あとは、提言1のヒアリングをやることで、多少、ここに圧力をかけるというようなところですかね。

○委員 最後は、市長さんが、どう考えているかということなんでしょうけれども。

○事務局 事務事業評価というものが行政内にはあるんですけども、あくまでも内部評価で、課長が担当職員がその事業を振り返ったものを課長がチェックをして、課長が今度は部長から評価を受けるということになりますので、實際上、職員がしっかりとしたヒアリングを受けて、問いただされるというようなことというのは、あるとすれば予算のヒアリングのときのみですね。予算は、どういう要求をするかということをチェックを受けるのであって、この事業はこういうような成果が出ましたかとか、こういったようなことで出てないんじゃないんですかというようなことというのは、なかなか白井市の市役所の中ではないというところがありますので、この審議会の中でのヒアリングというものは、大変庁内にとっては大きな意味を持っているものだと思います。

○会長 要するに、対議会だよ、予算だよ。

○事務局 はい。

○会長 いいかげんなことをやりゃあ、議会でたたかれるから、それは気を使うけれども、事業その

ものについては、たたくやつはいないよね。議員さん、あんまり勉強してないからね。

○委員 本当は予算の話でも、予算、決算なんかでも評価を入れて、実際に組み入れているところがあるんですけども、会長がおっしゃったように、それは議会の問題で、議会さん、しっかりやってくださいということ。

○会長 そうなんです。だから、こういう事業については、やっぱり中身を検証するというのは、こういう委員会だとか審議会ですっかりやらないと、議会でも説明できないでしょう、予算がもしがつくようなものであると。だから、僕らは協力してあげてる組織なんだよね。それをどこかにうたいたいな。

○委員 多分、評価をやっているときに、議員さん何人来るかとか、そういうのをチェックをすれば、次の選挙にも大きく反映してもおかしくない。

○事務局 あと、事務局として感じた部分なんですけれども、中間評価をやっていた際に、とても評価をしづらいというような皆様の感覚を受けたんですね。何も、今、始まったばかりで情報がない。で、だけれども、恐らく担当課としては来年度ぐらいに、これアンケートを考えているんじゃないかなというふうに事務局側が思ったとしても、その表明が調票上ないので、どうにもこうにも、そこから先は議論が進まない。結果として、30点とか20点とかいうことになってきたときに、この私たちの意見が、どう職員に反映されるのかということの必要性を皆さんとしては、すごく大切にされていると思うので、そういうことであれば中間評価という意味合いというのは、どこに意義を見出していけばいいんでしょうかということ、事務局としても多少感じた部分はありました。

○委員 そのことを前から何度も言っているのであって、3年後か5年後の100点、今、1年目だから100点のうちの、今30点じゃなくて、まだ1年目だから今言ったように、何度も順繰りやっていくものを今やってないものを点数つけようと思うからトータルが、だから、あの点数のつけ方が大体おかしいというのをいつも言っているわけ、みんな。

だから、今の●●さんがおっしゃったように、そんな数字とかマル、三角、バツじゃなくて、コメントをこういうことを今の時期はここまでやるべきじゃないとか、何かそういうことを我々は感じたことをコメントとして書くにとどめておいても、読んでくれる人が担当者が読んでくれたらいいし、また、他の人方も50点だから悪いとか、100点だからいいとか、そういう最後まで終わったやつを今言っているわけじゃないんだということどこかで表現してあげないと、数字だけ見ると何かおかしいなというのは、いつも思っているんですね。

○委員 おっしゃられるように、最終的な結果の評価、一緒にしてはいけないですね。例えば恐らく中間評価というのは有効性で、多分、年度計画って言ってますから、それをどれだけ目的を達成したかっていう有効性の問題の評価しかできないですね。

○会長 そうですね。

○委員 なので、それはちょっと厳しいですね、おっしゃるとおり。

○委員 評価するほうも厳しいけれども、受け取るほうも、まだやってもいないのに、いきなり30点だ、20点だと言われたんじゃ、冗談じゃないよと思うよね。

○委員 ですから、そういうところでヒアリングの機会があったほうが、来年度はこういうことがまだ足りないからしてもらったほうがいいんじゃないですかというの、こちらから直接伝えることができるし、むこうの考えも来年度、こういう予定ですというの聞けるので。

○委員 いいですね。

○委員 それのほうが効率的なような気がするけれども。

○会長 しかし、これまとめるの大変だな、文章的に。ただ、やっぱり点数つけるのは、やめたいというのは、皆さん考えていると思うんです。正確ではないですね、点数は。だから、これはコメントにとどめる、コメント評価にとどめるというふうに変えてみたらどうかしら。それと、できれば、ヒアリングは必ず中間事業については必ずヒアリングは受けると。だから、見出しは、中間評価を見直しというあれにして、終了評価に重点という見出しにすれば、今、皆さんがいろいろ言ったことが、まとまるんじゃないかしら。やっぱり効率化ですね、それは。会議1回しか開いてない部分で、コメント求められても困るんですね。何もしてないものについてね。

○委員 それこそ中間評価を見直し、評価方法を見直すわけですね。それで、必要に応じてヒアリングを行うにすれば、という言葉に変えたら。

○会長 ですね。全体的な流れをね。使うにはいいと思うんです。今まで中間評価として苦労したと。だから最終的な結論としては、原則、中間、配点なら配点は廃止し、コメントにとどめることにするとか、そういう形で。要するに、もう点数だとかマル・バツはつけなくて。

○委員 今後の方向性を確認するために、ヒアリングを行うとか。

○会長 そうですね。今後の、そうですね。

○委員 定量的な評価を廃止し、今後は何か適当にできるように、定性的な評価へと判断するとかというのが、多分。

○会長 クオリティを問題としてだよ。

○委員 行政的な文章ですね。定性的な評価に変えてという話に。

○事務局 この中間評価の時点で、定量的なものというのは、さっきの点数の議論じゃないですけども、それにそぐわない部分があって、そこはコメントを付す形で評価するということと。

○会長 コメント評価というね、したほうがいいですね。

○事務局 はい。それから、あとは終了評価と違って、未来があるわけなので、この先どうするかっていうことをヒアリングを通じて、しっかりと明らかに確認した上で望ましい市民参加に対しての話も出していくような、そういう形で事業の中間にある部分をより先も頑張ってやってねというふうになっていくように、コメントとあわせて未来のことをチェックしていくという、そんな感じなんですかね。

○会長 だから、タイトルにあるように、終了評価に重点を置くというような、そういう意味になるわけですね。最終事業が終わってからの採点で評価されるんですよという。

○事務局 はい。これ定量的評価というのは、この終了評価のときに。

○会長 そういうことになりますよね。

○事務局 例えば、昨年の事業で、1年間でこの継続事業が、会議が1回しかやられてないという
ような。

○会長 そうというような、あったよね。

○事務局 これも、やっぱり1回であった理由だとか、この先はどうなるですかって、それは滞っ
ているわけじゃないですよと、必要性の中で1回という判断をされてあるんですかと、そういうよ
うな形で点数をつけずに、調査票からコメントを出す、あるいはコメントを出すためにヒアリングを
して必要に応じて未来に対してのアドバイスなり助言をすると、そんな感じですかね。

○委員 そしたら、多分、ハイフンの副題変わりますよね。審議時間を効率的・効果的活用というの
は、変わりますよね。

○事務局 そうですね。

○委員 今の内容にすると、●●さんがおっしゃったことも、中間の意義とかも触れてくるし。今後
につなげていけるというのが、一番のところですね。

○事務局 (■■) そうですね。じゃあ、そのニュアンスの副題を、ちょっと事務局で考えさせて
いただいて、よろしいですか。

○委員 今の■■さんがおっしゃったとおりで、いいんじゃないですか。自分の頭に入っていりゃ、
そのままパッパッパと5分でできます。

○会長 言いたいことは、効率的・効果的な部分を促進したいということは言いたいんですけども、
それを文字に出しちゃうと、我々の委員会が、何と言うか、さぼりたいみたいな話になるので、何で
効率化図るんだ、お前ら議論するのが務めじゃないかみたいになっちゃうので、それはちょっと外し
たほうがいいな。

○事務局 そうですね。今のご提案で逆に言うと、効果的な中間評価の道筋というのが一定出され
たと思うので、今のことを。

○会長 よりよい事業の発展のために、評価を行うということが主眼であって。

○委員 それだったら、今、会長おっしゃったような話で、よりよい未来への中間評価へとかですね、
何かそういうのいいんじゃないかというふうに。

○会長 いいんじゃないか。ボキャブラリーがあるから決まっちゃうんだよ。じゃあ、何か提言2は
グチャグチャになりましたけれども、まとめていただいて、ちょっとこれ直裁的な言い方になっちゃ
っているんで、廃止とか、一本化とかね。

○委員 よろしくお願ひします。

○事務局 わかりました。

○委員 皆さんが今話したのだと、前から思っていた、中間評価に対するみんなのモヤモヤが解決さ
れていくなという感じが。

○会長 しますよね。会議開く予定とか、パブリックコメントをやる予定なんて書いてありますけれ
ども、僕は確認できないで評価しちゃうわけだから、それをちゃんとやりなさいとか、回答がゼロに
ならないようにってコメント、俺書いちゃうよ。

それじゃあ提言、さっきひっくりかえそうということで提言4が3になりましたので。

○委員 ちょっと、会長、小休止しません。

○会長 4時ね。じゃあ、休憩をとります。10分か15分か、再開をします。

(休憩)

○会長 ▼▼さんが戻ってこられましたので、提言4を3に変えたのを先にやります。読みます。

市民への情報発信と情報の共有化、パブリックコメントへの意見提出につながる参加意識の醸成。市民参加を進めるため、市民と市の情報の共有化と市政への参加機会が基本原則に位置づけられています。昨年度に市民と市の情報の共有化の一つの方策として「情報公開場所の3原則、情報公開コーナー、市ホームページ・図書館での情報の共有化」を提言し、今年度からその取り組みが全庁的に実施されるようになってきています。

しかしながら、アンケート調査結果の公表や会議録の公開が行われていない事業があり、市民参加後の結果が市民にフィードバックされないことが、市民の市政への参加意識が高まりきらない要因の一つになっているものと考えられます。また、市政への参加機会の一つであるパブリックコメントへの意見提出の件数が全くない事業が散見されるなど、市民の市政への参加意識を醸成しきれていないことは課題として受けとめなければなりません。

これからは、市民参加の実施前や実施後のあらゆる機会やさまざまな媒体を通じ、より一層の市民への情報の発信と共有化を進め、パブリックコメントへの意見提出につながる参加意識を醸成していくことが期待されます。

要するに、パブリックコメント、意見提出につながる参加意識を高めたいと。口火を●●委員、何か、こちらのほうに寄せている意見を4番はありましたね。ちょっと、口火を切ってください。

○●●委員 私。提言4は、いわゆる形式的に点数になるようなパブリックコメントをやりましたとかということから、より実質的な内容が伴ったものにしてほしいという、私たちのすごい気持ちがあるじゃないですか。そのことを4で表現しようとしているというか、提言4にしていくことは非常にいいと思います。

その上で全庁的に、ここに書くのか、もっと前のところがいいのかわかりませんが、公開が情報の提供が広くやられるように全部徹底されたじゃないですか。それは非常に高く評価、なってきますという、ちょっと冷めた言い方よりも、高く評価しますよという感じにいったらどうかというのを私の個人的な意見の一つと。

それから、意見提出の件数が全くないというのは、8事業中全てでやられているけれども、半分がないとか、審議会の情報が少し少ないとか、もう少しもうちょっと具体的にした上で、市民の参加意識の醸成が十分さりきれていないということが今後の課題ではないですかという指摘は、いいと思うんですけれども。

最後のところは、パブリックコメントの意見提出につながるようなということで、ちょっと私が先ほども申しましたけれども、例えば広報しろいのほうに会議の公開や意見公募のコーナーとかをちょっと設けて、そこを見れば市民参加できるように、そういう情報がパッと一目でわかるようにしても

らえると、また、ホームページなんかでも、それぞれの委員会、審議会のやつを見にいかないと、いつやってというのがわからないわけです。それが例えばトピックみたいな、今月の当面のこういう会議が限定されていますとかというのが、どこかにポンとまとめてあると少しわかりやすいかなと思うんです。

別に、けちつけるわけではないけれども、広報の一番後ろにカレンダーがついていて、大体載っているやつというのは、富士地区で朝市があります、どこで朝市がありますというようなことが中心に載っていてというよりは、そういう感じに実質的なやつをやったらどうかって例えばの話で、ちょっとこれは勇み足なんですけれども、そういう意見を個人的には持ちました。

以上です。

○会長 ●●さんから、具体的にそういうのがありましたけれども、ほかに。××委員。

○××委員 これパブコメを強調したいので、最後から6行の真ん中で、また、市政への参加機会の一つであるパブコメへの意見提出、これやっぱり行がえして、頭に持っていったほうがいいんじゃないかと思います。

○会長 ほかに。

○委員 私も、この提言4を読むときに、多分パブリックコメントを一番言いたいんだけど、パブコメを一番言いたいように提言がなくて、だったら多分、市民への情報発信と情報共有化というのは、多分、何度も同じような文章は出していると思うので、だからパブリックコメントの何とかと、実際にパブコメの文字を使った提言を副題じゃなくて、使ったほうが何を言いたいのか一番わかるんじゃないかなと思ったんです。まだ、案は浮かばないですが、いかがでしょうか。

○会長 そのとおりだと思います。

○委員 何度も何度も、これは同じようなこと出しているんで、今回はパブコメ。結局、パブリックコメントをたくさん出してもらえるようなことをしてくださいということですよ。そういう内容の提言内容をずばっと書いたほうがいいかなと。

○会長 そうですね。じゃあ、パブリックコメント回答ゼロを解消するためにとか。

○委員 そのほうが、ずっとわかりやすいです。

○会長 そのままじゃん。

○委員 でも、本当にそういうのでいいと思うんです。

○会長 そうでしょう。

○委員 そのほうがいいと思います、むしろ。

○会長 もっとつけ加えれば、パブリックコメントをやったで済ませちゃいけないよとか。

○委員 さっき会長がおっしゃったやつ、それこそ副題に市民への情報発信の方法の検討とか課題とか、そうにしててやれば。

○会長 共有化というか、課題だよ。

○委員 課題だと思うんですね。

○会長 課題だと思うよ、共有化というか。だから、これ逆転だね。

○委員 さっき、パブリックコメントの何でしたか、ゼロ。

○会長 ゼロ回答をなくすために。これ一つの私の。

○委員 でもこれ、やっぱり市民の委員会なので会議なので、市民からの提言というのは別に意見、行政用語を無理して使う必要はないでしょう。会長のおっしゃるとおりでいいと思います。

○会長 わかりました。

○委員 パブリックコメントゼロ回答をなくすためにで、副題を。

○会長 副題を市民への情報発信と、情報の共有化じゃなくて。

○委員 課題って言った。

○会長 課題。

○委員 課題じゃ、おかしいよ。

○委員 情報発信の方法ですよ。方法、技術、情報。

○会長 録音とってあるから、録音、後で見てください。

○事務局 はい。

○会長 思い出せない、言っちゃって。

○事務局 参加意識を高めるための情報発信とかということに、なりますでしょうか。

○委員 そうですね。参加、何でしたっけ。

○事務局 参加意識を醸成するための情報発信とか、そういうものですか。それが今までは、事後の経過公表もない、アンケートの会議録の公開も幾つか行われてないという。

○委員 例えば、参加……。

○会長 じゃあ、市民への参加意識の醸成を、これ高めるためだな、高めるための情報発信。

○委員 同じような言葉ばかり使わない。

○会長 市民への参加意識の醸成を高めるための情報発信。

○委員 情報2回出てきてるか。

○会長 情報が2回か。出てないじゃん。だって、情報の共有化は消しちゃうんだよ。

○委員 そうすると、参加意識を高めるための情報発信。

○委員 それでも、いいんじゃないですか。わかりやすくて。

○委員 そのぐらいで。

○会長 何。

○委員 醸成という言葉も、ちょっと。

○会長 多過ぎる、硬い。

○委員 うん。

○会長 じゃあ、参加意識を高めるための。

○委員 情報発信が、サブタイトルになる。

○会長 情報発信ね。いいじゃないですか。これ、タイトルね。タイトルじゃない、サブタイトルね。で、タイトルは、パブリックコメントのゼロ回答などをなくすためにで、いいですか。☆☆先生は市

民感覚でいいっていうけれども。もし、それで皆さんよろしければ。かなりインパクトのあるタイトルになりますけれども。

僕は、これに非常に腹が立ったんです。パブコメやったけれどもゼロでしたって、しれっと書いてあるのね。今後、どうするかなんていうことは一切なくて。

○☆☆委員 会長のお気持ちをパブコメじゃなくて、いつもおっしゃっている、図書館やってないじゃないかとか、★★さんに怒っていらっしゃいましたけれども、それを考えると、●●さんのおっしゃったことも評価はわかるんですけども、●●さんとしては結構一段落目の一番最後、全庁的に実施されるようになり高く評価しますぐらいなんです。

○委員 そうです。

○☆☆委員 それは、会長の昔から●●さんに言っていたらっしゃる話を考慮すると、なりましたぐらいですかね。ようやくになりました。

○会長 なりましたよ。させたんだから、こっちはね。やれって言って。で、市長もわかりましたって言ったんだものね。

○委員 そうですね。多分、かえって、今の会長のお気持ちとしては、なりましたぐらいですものね。ようやくになりました。

○会長 なりました。ようやく実施されるようになったんだ。なっていますじゃないんだ、なりました。

それと、私ばかり言っちゃってあれなんですけれども、●●委員のおっしゃっていることも、私も思ったんです。一番最後の行で、パブリックコメントへの意見提出につながる参加意識を深めるためのさまざまな工夫を図っていくことが期待されますって、それを●●委員は実ほうまいやり方で、具体的例えば、広報しろいに会議公開、意見公募のコーナーを設置して一覧化するなど、工夫をこらしながらというふうに置きかえても僕はいいんじゃないかなと思って、考えていることが同じだなと思って。

○委員 これ、いいですね。

○会長 この文章を●●委員の文章を、参加意識をのところに入れたら、どうかなというふうに思います。

○委員 異議なしです。

○会長 やっぱり、具体的な提案を●●委員はされていたんですけども、僕はさまざまな工夫をしてほしいというふうなことを考えていたのを具体的な提案になっているので、この●●委員の提案を採用したいなと思うんですけども。

○委員 私も賛成です。

○会長 いいですか。

○委員 ■■さん、広報課大丈夫、つらくない。

○事務局 (■■) それは、かけ合ってみます。提案をいただいたものを。

○会長 ちょっと今、発言中で。

○委員 ●●さんので、私も賛成なので。具体的なほうがいいと思います。最後に、もしよければ、期待されるじゃないで、それが課題となるにしたほうが。

○会長 課題となる。

○委員 期待じゃなくて課題ですよって、それが大事って、もっと明確に言う感じになるかなと。

○会長 ということが、課題となりますか。

○委員 よろしいんじゃないですか、会長、最後の気持ちですから。

○会長 何か、××委員。

○××委員 事務局の広報課の方の気持ちを考えたときに、受けられるのかと思って、今ちょっと心配しただけです。

○事務局 皆様のご意見は、受けさせていただいて、それを答申後につけ合います。どこまで実現できるかというところはあるかもしれませんが、かけ合ってみます。

○会長 はい。かけ合いをやるというね。

○委員 間に入る人、大変になっちゃう。

○会長 情報コーナーに、そういうのをつくってほしいという申し入れを事務局からやってもらおうと。これこそあれなんだよね。呼んでさ、話をしたいんだよね。やるのとか言ってね。ちゃんと、名前控えておくからねとかね。

○事務局 あと●●委員の審議会の傍聴の関係の言及がありますけれども、このあたりの指摘は盛り込む形にいたしますか。パブコメゼロ以外にも傍聴者が少ないという、この記述は。

○会長 我が委員会はどうだったか、途中からワーツとふえたけれども、それまでほとんど、きょうもゼロだものね。

○委員 きょう、議会だからじゃないですか。

○事務局 そうですね。

○委員 今日歩いてましたよ。

○会長 じゃあ、●●委員の意見を入れますか。コメント、●●13というやつ。

○委員 13。後半だな。

○会長 13。そうそう。13の、その半数の40行については、全く意見の提出がないとか、審議会等の傍聴が認められている会議においても傍聴者が少ないなどということをして……、最後。

○委員 ちょっと提案なんですけれども、会長の意思としては、パブコメに強調したいのであれば、13、14、どちらとも審議会というのが入っているので、どちらかを消されたらどうかと思います。

○会長 そうですね。どちらがいいですか、先生、消すのは。

○委員 これは会長のお気持ちがありますので、どちらでも。

○会長 別に、俺1人で決めているわけじゃないから。

○委員 どちらも入っているので、みんなの意見が入っていると思うので、先導していただければ、それに同意するか、しないか。

○会長 先導、俺は先導者か。こっちのほうの扇動者か。どうしますかね。

- 委員 我々が最後ですからね。会長の思いをぜひ。
- 会長 私の思いね。前段はいいですよ。しかしながら、アンケートの、こっちの問題ですよ。実施されるようになったと。これ、少ないなどのつながりがあるの、●●さん。コメント13。
- 委員 点ですよ、多分。など、次に、市民の市政への参加意識を醸成する。
- 会長 市民の、どこにつながるんですか、それ。
- 委員 そのまま入れて、点を打たれるんだと思うんです。
- 委員 そう。ここの審議会は取っちゃっていいかも、コメントに絞ったほうがすっきりします。
- 委員 すっきりしますね。
- 会長 取る。じゃあ、取りましょう。
- 委員 学校へのって、ここで具体的に書くかどうか、あんまりそれほど重要でもないと思うので、このままでもいいような気がしますけれども。
- 会長 なるほど。とにかく。
- 委員 散見されるというのを半分と書いちゃうのか。
- 会長 散見されるのほうがいいんじゃないですかね。
- 委員 じゃあ、それでいいと思います。
- 委員 最初に、見出しにも出しちゃったから、それ印象としてついてる。
- 委員 そうですね。
- 会長 じゃあ、そういうふうに決めましょう。
- 委員 今のところで、ゼロ回答をなくすためにというのがあって、そのあとも参加意識を高めるために、ために、ためにを重なるような気がして、だからもうちょっと何か。
- 会長 なるほど。じゃあ、ゼロ回答をなくす方策。
- 委員 逆に、ためにを切って、などをなくすとかいうのでも別に問題ないと思うんですけれども。
- 会長 なくす。
- 委員 なくすで終わっているのね、なくすで終わり。
- 会長 ためにを取る。
- 委員 ゼロ回答という言葉で、すぐわかるんですか。何か給与交渉やってるみたいなので。つまり、提出件数がゼロだということなんですね。
- 会長 確かに、そうなんだよね。そうそう。やったけれども、帰ってくる回答がゼロなんです。
- 委員 だからアンケート、パブコメの結果がゼロなんですね。
- 会長 パブコメのゼロをなくすために。
- 委員 とか入れないと、何か。
- 会長 いや、だからパブリックコメントへのゼロ回答です。
- 委員 回答ですね。
- 会長 回答がゼロなんですよ。
- 委員 ということ、はっきりすれば、それでよろしいですね。

○会長 いいですか。パブリックコメントへのゼロ回答をなくす。で、市民への参加意識を高めるための情報発信ということで、回答は。

じゃあ、ここはそういうことで、よろしいですね。

○委員 はい。

○会長 ●●委員の意見を最後の部分に入れて。

じゃあ、次に提言3、これを4に変えると。

市民参加事業担当職員に対する事前研修の実施、市民参加の理解に基づく事業推進。

これまでの総合的評価は、市民参加の観点から事業終了後に評価を行い、その評価結果を事業担当課にフィードバックすることにより、事業担当課は事業の評価結果と改善すべき事項の理解を促し、市民参加の必要性と重要性を再認識することに生かしてきました。きましたっていうより、生かしてきたな。

こうした取り組みは、職員の市民参加の理解とこれからの市民参加の事業推進に一定の効果があるものと思われま。

しかし、市民参加事業を実施する前段階で、市民参加の意義や考え方とともに、市民参加の手法とその効果的な適用方法を理解することで、さまざまな機会に市民参加を取り入れた質の高い事業を推進することが可能になります。また、総合的評価の評価基準や評価水準をあらかじめ理解することで、市民参加のポイントに即した事業の推進とともに、終了評価の際の事業の振り返りにも役立てることが出来ます。

こうしたことから、市民参加事業を実施する職員に対し、事業を実施する前段階で市民参加を十分に理解する事前研修を実施することを期待します。

市民参加という字が、すごく多いですね。ここは、●●さんのコメントは、ないね。

○委員 1行目に、市民参加の観点から事業終了後に評価を行いというけれども、中間にもやっていたので、事業評価を行いというのだったらどうですか。

○会長 そうだね。事業評価だな。観点から事業評価に評価を行い。

○委員 観点から、事業評価を行い。

○委員 終了後っていうのを切っちゃえばいいんだ。

○会長 終了後を取る。

○委員 はい。

○会長 観点から、事業評価にまでだね。終了後にまでね。

○委員 までです。

○会長 事業評価を行い、はい。

○委員 全体的に、僕、これでいいと思うんですけども、一番最後の結論のところの2行のところなんですけれども、下から2行目の右のほう、事業を実施する前段階で市民参加を十分に理解するとなっているんですが、市民参加の意義とか、何か一言入れたらいいんじゃないですか。市民参加の意義を十分理解すると、事前研修。というのが、冒頭で上から3行目で市民参加の必要性と重要性を再

認識することに活かされてきましたという言い方をしてるんですけども、必要性、重要性を繰り返すのも何なので、市民参加の意義とかという言葉を入れたらどうでしょうか。それだけです。

○委員 そうですね。あったほうが、いいね。ただ、市民参加を十分に理解、ちょっと意味が浮わついているね。

○会長 市民参加の意義を使い、最後から2行目ね。

○委員 上から2行目なんですけれども、1行目の後半から言うと、その評価結果を事業担当課にフィードバックすることにより、事業担当課は事業の評価結果と改善すべき事項の理解を促して、「は」じゃなくて、「に」じゃないかな。事業担当課に事業の評価結果と改善すべき事項の理解を促しとかじゃないかと思うんです。「は」を「に」に変えたほうが。

○会長 事業担当課に、事業の評価結果と改善すべき事項の理解を。はい。

○委員 そうですね。

○会長 これ、職員の研修をやりましたよね。ワークショップもやりましたよね。いろいろな意見が出てきましたよね。これは、皆さんにお配りしましたか、この委員に。

○事務局 お配りは……。

○会長 俺だけかな、読んだのは。

○事務局 いえ、結果は。資料をパワーポイントか何かの資料をお渡ししてあると思います。

○事務局 (▼▼) 市民参加条例研修ですかね。

○会長 ですよ。それなんでしょう、これは。

○委員 いや、それとは別。

○事務局 これと、あれは職員一般ですよ、これは完全に。

○会長 担当課が事業を始める前に、それをやるべきだという規定ですよ。だけど、あれを読むと、何か同じ顔ぶればっかりだったから。いろいろなワークショップで出た意見が全部、ダーッと出たじゃないですか。あれ、職員の考え方が出てましたよね。

それに比べて、これを果たしてやって、事業担当課だから必要かなとは思うけれども、どれだけ真剣にやるかね。

○事務局 出てましたね。実際には、やっぱり職員は、わからないという声、かなりあるんです。わからないことが、今度は自覚した段階で、じゃあこうするんですとって、実際実行できるかという、また壁があるんですけども、全くわからないのであれば何事も進まないというところで、これわかってもらったための事前研修は、やる意味はあるかなと思いますね。

○委員 提言3の、事前研修の実施というふうな表題になっていますけれども、このテーマと、実施といたら、やらなきゃいけないか、あるいはやっていたけれども、やってないから実施するというふうに読めなくもないので、そうすると導入ですよ。だから入れるという話だったら、事前研修の導入ですよ。

○事務局 そうですね。

○会長 そうか。

○委員 実施だったら、一般的には。

○会長 やってないよね。一般的な部分でしょう。

○事務局 そうです。

○会長 事業担当課の研修ではなかったんだよね、この間は。

○事務局 そうです。

○会長 ということは、導入に直しますか。

○事務局 そうですね。

○会長 じゃあ、実施を導入に変えましょう。これは、ぜひ、やってほしいですね。

○事務局 やりがいありますね。

○会長 ヒアリングも、多少、変わってくるんじゃないですか。

○事務局 そうですね。

○委員 ××さんが、いつも言っているじゃない。市民参加のあれ、皆さん理解してますかって。

○××委員 それだけなんですね、僕ね。結局、それだけなんです。

○委員 そのことだよ。

○事務局 そうです。

○委員 いろいろな機会に、とにかくやるほかないと思いますけれども。

○委員 わかってるはずですけども。

○委員 前、調書というか報告、僕らに出してくれるのも、何でこんなもの書かせられるんだろうと思いつつ書いてたんじゃね。

○会長 それじゃ、これ。

○委員 最初の文章のところ、市民参加の観点から事業評価を行い、その後、また事業評価を事業担当課にフィードバックすることになり、いらない。抜かしちゃったらどうですか。

○会長 それをでいいか。市民参加の観点からを抜かしちゃう。

○委員 評価を行い、フィードバックすることにより事業担当課は事業の結果を改善すべきというふうにつなげれば、いらないですよ。

○会長 はい、そうしましょう。取りましょう。

○委員 どこからどこまで。

○会長 1行目のけつ。

○委員 その評価結果を事業担当課に。

○会長 その評価結果を事業担当課は取る。行い、フィードバックすることによりとなっちゃうんだよね。ここ、あんまり時間とりたくないんで、ここで打ち切りにします。これでおしまい。ほかにある。

○委員 いや。もういいよ。

○委員 この段落全体の下から4行目で、市民参加のポイントに即した事業の推進というのは、市民参加の評価ポイントということなのか。

- 会長 何に即した。
- 委員 ただ、ストレートにポンとポイントに即した事業の推進という意味が理解されるのかなというかというか。
- 会長 ポイントというのは重要性みたいなこと。
- 委員 基本というかね、そういうことなのかと。
- 会長 住民参加の基本に即した。
- 事務局 ここ書いたものが、評価基準や評価水準ということで、最低ここはやるべきだとか、さらにこれをやるといいよという、そこに基づいた事業というものが、やる方向に動くんじゃないかという、そういうような意味合いとして、私は書いてあります。
- 会長 その上の行に、評価基準や評価水準をあらかじめ理解することって書いてあるよね。
- 事務局 はい。
- 委員 じゃあ、点数ということになるわけだね。
- 会長 そうだね。
- 委員 全部ひっくるめて、ここ市民参加の理念に即した事業の推進とかのほうがよくないですか。
- 会長 理念。市民参加の。
- 委員 理念。理念であれば、全部入りますから。
- 事務局 そうですね。本当トータルですね。
- 会長 理念に即したになるわけ。
- 委員 そうですね。即した事業の推進だったら、わかりますね。
- 会長 ここにつなぐわけね。市民参加の理念に即したということになるわけね。
- 委員 もし、こういうのが本当にできるのであったら、それこそ市民参加の第1回目の研修は、私たちがいたんですけども、委員になる人を対象にですね。
- 会長 そうですね。
- 委員 そうですね。
- 会長 そうしないと、ちぐはぐだね。だって、来たばかりの人は、何するかわかってないわけでしょう。
- 委員 そうということですね。
- 会長 市民参加条例そのものだって。僕らは一番最初に、市民参加条例についてレクチャー受けましたものね。
- 委員 そうだね。
- 会長 市民参加というのは、どうして。それは、●●課長と△△さんが、得々としゃべってくれたんだよね。それがあったから、今日があるのかな僕たち。それ、やりましょうよ、■■さん。
- 事務局(■■) はい。
- 会長 審議委員だから、委員も含めて。
- 委員 委員そのものが、委員が何をやっていいか、どういう方法で評価していいかということをこ

っちをわかってないから。

○会長 そうそう、基本的な部分もね。

○委員 始まる1年間、何となくやってたという、そういうあれがあるんだよね。

○会長 そういうあれですよ。そうして点数をつけるのかというところから始めないと。

○事務局 そうですね。

○会長 だから市民目線での評価というのが、やっぱりこれからの市政に大いに影響を及ぼすわけなので、この推進会議の委員にもそれは言えることで、それは文章化しなくてもいいよね。

○委員 文章化しなくても。

○会長 ねえ。担当課が覚えていれば。次に、■■■さんになるだろうから、■■■さん、よく覚えておいて、俺らが、さよならと言った後、それをしっかりやってください。

○事務局 (■■■) はい。

○会長 そうか。じゃあ、▼▼さんと■■■さんのタッグで、ひとつしっかり審議委員を、審議委員とつか推進会議の委員たちを教育してもらって。

○委員 鍛えてやって、ビシバシ鍛えて。

○委員 一つ、▼▼さんとか、特に■■■さんもそうですけれども、言えないことってあると思うんです。

○会長 何が言えない。

○委員 例えば、こういうふうには評価されてますよとか、直接言えない部分であると思うんです。誰がこう言ってるというのは、なかなか職員の方、言えないと思うんです。そうすると、次の、こういうことを言ったら、△△先生にまことに申しわけないですが、例えば△△先生が、実際こういうところを私たちは強調してますというのをいいよな。

○会長 いいですね。

○委員 私、会長のかわりでいいんですか。何でしょう。

○委員 次は、会長は会長じゃなくなるので。

○委員 会長じゃなくなっちゃうんですね。

○会長 そう。もうないのよ。いたって言っても、二期やっちゃうと。

○委員 議事進行ね。これは、これで終わったんですか、もう。

○会長 終わったよ。

○委員 一つ、この前、ここに市民参加にない給食センターの問題とか、そういうのを我々から市民参加でできないのかという話が、何度もありましたね。これは、どこかここに載せる必要はあるんじゃないかなと思っていたんですけれども、どうなんでしょう。

○会長 それね、例の条例を改定するときに、そいつを出したいなと私は考えているんです。もう条例にしてしまえば、当然ああいう、40億も70億もかかる事業を市民参加の中での事業として位置づけをさせるという。

○委員 それこそ市民参加の大きな意見として。

○会長 そうなんです。あれをテーブルに載せない理由が、条例がないんです。だから、それをちゃんとつくるべきなんです。条例改正っていつ。

○委員 そうか、我々から提案するという事は、できないの、推進会議だから。

○会長 できないの。だって、我々はできたやつを評価するという事。

○委員 これをやってくださいと、評価するだけだから。そうだね。

○会長 そうそう。だから条例を定義つけて、やっぱり市民に直接関係のある事業については、審議にかけなくちゃいけないというようなことを盛り込んでもらいたいなと思っているわけ。それ▼▼さんにも言ってあります、それ。

○委員 二つの事項の見直しを8月までにやるって書いてあるから。これだけだから。

○会長 私が、ワアワア言ったってね。

○委員 いつもワアワア言っているやつ。だから、この条例文を読めば、漏れるはずないんだけど、何でそれが漏れるんだみたいなことだから、今回の提案は答申は別にして、二コマありますね。調査表のことと、このことで整理されているんじゃないかと、僕は思っていましたけれども。そういう理解でよろしいんですね。それが、この右側のほうの。

○委員 いつも言っているよな。

○会長 いいんじゃないですか、それでね。

○委員 任期内に検討するというやつですね。

○委員 に入るのかどうか、結論出るのかどうか分からない、当然、テーブルには載りますね。

○委員 はい。それ、今、お話ししました。

○委員 と理解しててよろしいんですね。下のほうで整理しますと、答申と別にね。

○事務局 はい、そうです。

○会長 そうなんです。じゃあ、早く終わって、次のあれに移りたいのよ。5時だから。

○事務局 今年度の、残された予定を最後にお伝えしたいと思います。

○会長 お願いします。

○委員 これ、終わりですか、会長。これも、総合評価も終わり。

○会長 ええ。

○事務局 総合評価については、どうぞ。

○委員 一つだけ意見あるんですけども。いいですか。

巻末に10年間のあれを入れていただいたので、そのことでちょっと意見が二つほどあります。

一つは、ページでいくと37ページから42まで、この10年間のこの推進会議の仕事の中身ですよ。これ、やっと入りました。

ただし、重複している部分がありまして、1番の答申内容と取り組み結果一覧は、これ審議年度のところにありますよね。審議答申内容と取り組み結果となっているんですね。次の39ページは、これも同じようなタイトルなんですけれども、主な審議内容と答申内容と二つあるんです。そうすると答申内容が、1番と2番でダブっちゃうんですね。

例えば、1番の答申内容は左側、次のページ、2番の答申内容は右側で、これ完全にダブっているんです。

○会長 なるほど。

○委員 したがって、私の結論は、2番を消しちゃって、1番を活かしたららどうかということなんですけれども、つまり消すほうの2番の左側、主な審議内容で、これが特に議題じゃなくて、こういうことをやりましたという説明なんですね。本当はあったほうがいいんですけれども、ちょっとページの関係でボリュームの関係で入らないから、この2番はいらないんじゃないかというのが一つ。

そして1番の答申内容と、その取り組み結果、例えば図書館をふやしたとかというのを活かしたらどうかというのが一つ。

あと、3番は、当然、総合評価の話ですので、これを今3番になっていきますけれども、41ページか、41ページのこれを2にして、というのはどうでしょうかというのが一つです。一つ目。

それと、もう一つは、巻末に入れたことをどこにも書いてないんです。つまり目次も何もないものからです。

○会長 そうか。目次を入れてほしい。

○委員 いや、そうは言わないんですけれども、例えば。

○会長 そうだね。これを入れた意味が何も明記されてないね。俺もこれを見て、ああ便利だなと見ただけの話だから。

○委員 例えば答申の本文の後ろのほうに、市長におかれましてはの前あたりに、我々も10年たちましたと。で、巻末に資料を掲げましたと。自己評価までいかないんですけれども、そういうのがあるんだというのがわかるかなということで、その2点です。以上です。

○会長 どちら辺に入れますか、それね。

○委員 入れるとすれば。

○会長 何とか試行的に実施しましたの後ですね。市長宛てのこれでしょう。答申の表紙。

○委員 答申の前文、市長におかれましての前のあたりが。

○委員 市長におかれましての前、一番最後の部分。

○会長 前あたりがいい。

○委員 いいんじゃないかと思っているんですけれども、控え目に。常に控え目ですから。

○会長 はい。じゃあ、そうしましょうか。控え目に。ここに10年間の事業についての一覧表を掲載してあると。

○委員 何々を掲載しましたみたいなことをさらっと。本当なら、自己評価しておきたいんですけども、それをちょっと時間がないから。

○会長 これ、あれですよ。読んでると、最初のころ真面目だからバツェンが多いんですね。よくわかってないんじゃないかと思うところがあるんですけども。バツェンするのが好きなやつがいたじゃない。

○委員 どっちだったんでしょう。

○会長 わかりました、それじゃ。

○事務局 わかりました。

○委員 いかがでしょうか。

○会長 じゃあ、いいですか。次に議題に移っちゃって。じゃあ、お願いします。

○事務局 今年度のこれからの予定を申し上げたいと思います。

十分なご審議をいただきまして、ありがとうございます。これから修正をさせていただきたいと思います。次こそ必ず指定された期限までにということ、1週間ほどお時間を頂戴できたらと思います。12月27日で年の瀬の年の瀬で大変申しわけありませんが、12月27日火曜日着ということで、今のご意見を反映させた答申最終決定案を皆様にお送りさせていただきますので。

○会長 それ、メールですね。

○事務局 メールでよろしいですか。どっちがよろしいでしょうか。

○会長 郵送がいい。二ついらないでしょう。

○委員 私は、メールでいい。

○会長 俺もメールでいいと思うんだよな。

○事務局 じゃあ、メールで。

○会長 だって、たたき台というか、これをもらっているから、どこが変わっているか、読めばね。

○事務局 それで送らせていただきますので、年末年始に大変お忙しい中確認、申しわけございません。

○会長 また、あれかな。

○委員 つまり、締め切りはいつですか。

○事務局 締め切りは、1月4日に。と言いますのは、市長の答申提出を1月中旬を予定しておりまして、1月12日から1月19日の間に行いたいと思います。それは2月1日の広報原稿に大きく掲載をしたいということもございまして、そういうスケジュールの兼ね合いがあるものですから、年末年始大変お忙しい中恐縮なんですけど、1月4日までに、ここはもう少しここをちょっと入れてほしいとかいう部分、あるいはこれでオーケーですというようなご返事を皆様からいただきたいと思います。

○会長 必ず返事は出すと。訂正がなくても、オーケーという。なるべく訂正なく、頑張るね。

○事務局 頑張ります。

○会長 また、もし訂正があった場合、どういう扱いにしますか。

○事務局 訂正があった場合には、会長とちょっと最終的に相談させて。

○会長 そうですね。酒飲んでられないね。わかりました。それで皆さん、よければ。よろしいですか、それで。

○委員 はい。

○事務局 あとは、事務局との。

○会長 会長と事務局とで折衝して。

○事務局 このあと、会長、副会長にご意見を伺って、市長への答申の日程を決定をさせていただ

きます。2月1日の広報原稿に、できれば答申書を出している写真を盛り込んで、大きく記事が目立つようにしていきたいと思います。

次回の最後の第6回目の会議なんですが、☆☆先生のご都合がつかないということで、改めまして☆☆先生のご都合が2月中、明確になった時点で確認をしまして、その☆☆先生のご都合に合わせた日程案を皆様にメールで提案させていただきます。で、出席人数が一番多いところで、開催日を決定させていただきます。

○会長 2月ですね。

○事務局 2月の20日以降、3月上旬ということで。

○会長 ここ書いてあるとおりですね。

○事務局 ご予定いただきたいと思います。

○会長 メールでいただくと。

○事務局 来年度は、任期満了までに予定では2回、条例改正に向けた最終答申をいただくための時間ということで、予定をしております。

以上になります。

○委員 今、ちょっと。メールで来るというのは、今、ここに入れた答申、この厚いのはもう変わらないんだね。これも変わるの。

○事務局 そこも訂正をしますので、今、さっきのまとめるというのがあるので。

○委員 そうか、1枚目。

○委員 そこだけでいいですよ。

○事務局 そこだけでいいですか。じゃあ、訂正を加えた部分だけ厳選して、送らせていただきます。

○会長 そうですね。もらったってさ。

○委員 いやになっちゃうよ、お酒飲めない。それは冗談だけど。

○会長 じゃあ、そういうことで。

○委員 わかった。

○事務局 じゃあ、閉会ということで。

○会長 いいですか。事務局のほうはそれで。じゃあ、そういうことで本日、きょうは閉会いたします。どうもありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。